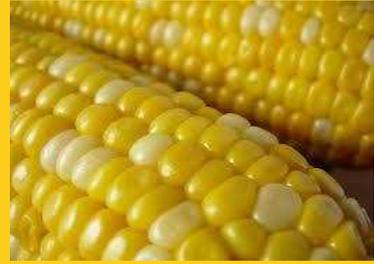




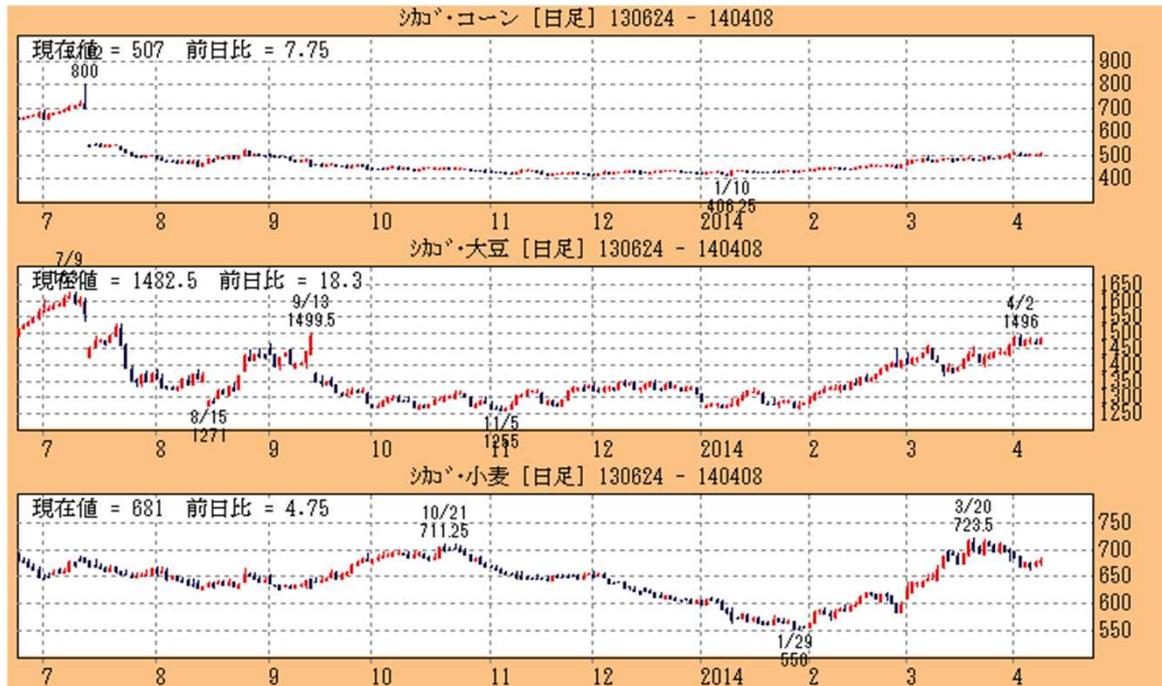
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

穀物価格は在庫減を見越して上昇

発行日 : 2014/4/9



4月8日のシカゴトウモロコシ5月限は7.75セント高の507.00セント。5ドルが抵抗になったことや、今後2日間の天気回復による作付け進展観測で下落したが、米国期末在庫の下方修正予想を背景とした投機買いで切り返した。週末から雨が予報されることや、ドル安加速や原油急伸、株の急反発も強材料。安寄りしたあと、反発したが、節目の5ドルではね返されたあとは、戻り売りで地合いを弱めた。9日の需給報告で米国期末在庫の下方修正が予想されるものの、5ドル台の維持が難しくなっていることからリスク回避の売りが出た。米国産地の天気回復予報により、北部の農作業、南部の作付けが再開するとの見方も弱材料。

立会時間は、1.50セント安で寄り付いたあと、497.00セントまで下落したが、押し目買いが入って反発に転じ、時間外取引の高値や前日高値（502.50セント）を突破した。明日の需給報告で、米国期末在庫の下方修正が予想されることをはやした投機買いが優勢になった。3月1日在庫は前年同期を大きく上回ったものの、予想平均を1億Bu下回ったことから、期末在庫の下方修正予想が広がった。ドル安・原油高や株価の急反発も支援材料。今後2日間、コーンベルトに好天が予報されることから農作業や作付け進展観測が広がり、時間外取引で売りを誘ったが、週末に再びにわか雨が予報されることから、立会時間は相殺された。中国がブラジル産コーンの品質許可の発行で合意し、大量輸入に道筋を付けたが、中国はここ数年、米国産以外の輸入を増やしてきているため、市場への影響はなかった。10日移動平均で支えられてテクニカル買いを誘い、507.75セント（8.50セント高：1.7%）まで値を飛ばした。

中国駐在の米農務官は、2014-15年度（10月-9月）中国コーン生産高見通しを前年度比0.1%増加の2億1800万トンと予想した。国内消費見通しは前年度比2.4%増加の2億1400万トン。期末在庫見通しは、前年度の8022万トンから8.6%増加の8714万トン。

9日公表の米農務省需給報告が相場の追い風になるとの観測からファンドが買いを入れた。終盤では取引システムが停止したため、立ち会い取引がにぎわった。市場予想によると、需給報告では、旺盛な輸出需要を受け、期末在庫が下方修正される見通し。

一方、中国はブラジル産の輸入を今月から開始することを許可しており、米国産にとってはマイナス材料だ。気象予報によると、米中西部では今週いっぱいおおむね気温が上昇し、晴天となり、作付け作業がはかどる見通し。ただ、穀物ベルトの中心部では、まだ土壌温度が低すぎるという。

4月8日のシカゴ大豆5月限は18.25セント高の1482.50セント。期近が急反発。終値の前日比は3.25~18.25セント高、中心限月の5月限は18.25セント高。5月限は、売りが優勢になったが、前日安値を維持したあとは、投機筋の思惑買いが優勢になって切り返した。明日の米農務省報告で米国期末在庫やブラジル生産高の下方修整が予想されること、コーン急伸、ドル安加速、株高・原油高が支援材料。（つづく）

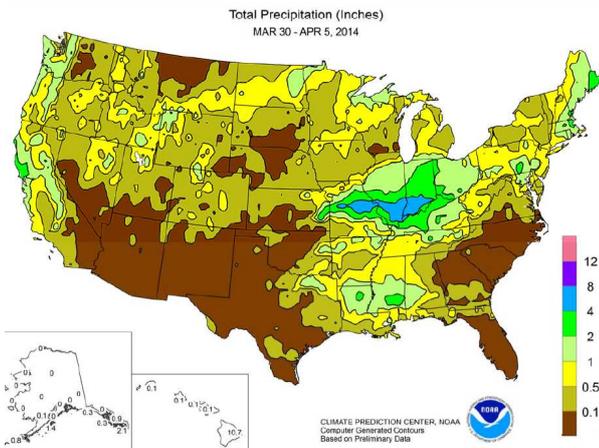


シカゴ大豆中心限月の5月限は、売りが優勢になったが、前日安値（1459.50セント）を試す勢いがなかったことから切り返した。戻り売りでマイナスに転落したが、ドル安・原油高で反発した。米国期末在庫やブラジル生産高の下方修正予想も強材料。立会時間は、1.75セント高で寄り付いたあと、1465.75セントまで軟化した。投機買いが入って時間外取引の高値を突破した。利食いで押される場面もあったが、コーンの上値追いははやして前日高値（1479.50セント）を上回り、1483.50セント（19.25セント高：1.3%）まで値を飛ばした。明日の米農務省報告は、米国・世界ともに期末在庫の下方修正が予想されることがや、ブラジル大豆生産高見通しも下方修正が予想されることが投機買いを誘った。ドル安・原油高が加速、株価が急反発に転じるなど、外部市場が強気に転じたことも投機買いを誘った。

シカゴ小麦5月限は4.75セント高の681.00セント。主要産地東部では降雨が予想されるものの、雨雲はカンザス州やオクラホマ州、テキサス州を外れる見通し。（日本先物情報ネットワーク）

TOPIC s 米国の天気

3月30日～4月5日の雨



米国産地の天気概況は以下の通り（米農務省HPの天気概況及び予報を要約）。

コーンベルトは、涼しくて、風のある天気が広がっている。南部及び東部では広範にわか雨が降っている。一般的に、コーンベルトの農作業は遅れている。4月6日現在のアイオワ州のオート麦の作付けはわずか7%あて、昨年9%、平年は29%。

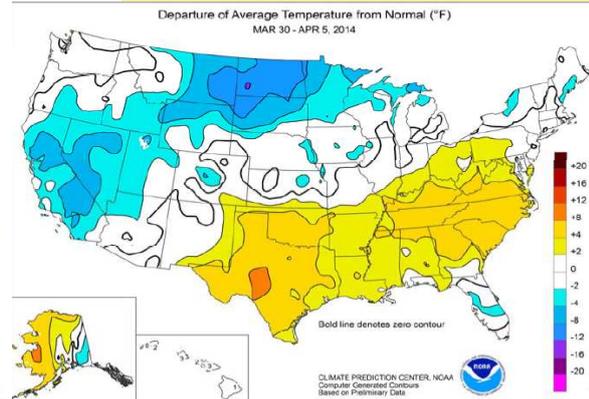
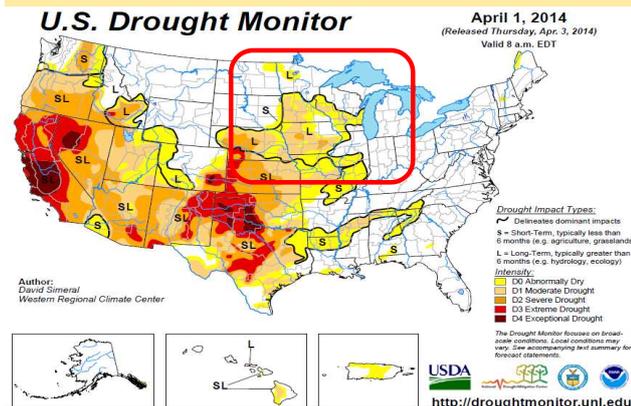
米南部は、大西洋岸南部及びミシシッピ渓谷南部で雨が降っている。土壌が湿っているため、農作業は遅れている。4月6日現在、表層度水分が50%以上過剰と評価されているのはミシシッピ州（71%）、ルイジアナ州（51%）。

米ブレイズは、乾燥した天気が広がっている。北部の気温が上昇する一方、中部の気温は低いまだ。4月6日現在、冬小麦の作柄はテキサス州（「劣」以下61%）、オクラホマ州（48%）、カンザス州（27%）で悪化した。

週央から後半にかけ、比較的弱い前線が連続して発生するが、カリフォルニア州からテキサス州は影響がなく、高温で乾燥した天気となるだろう。同時に、米西部の高温が米国全体を包み込むだろう。しかしながら、週末にかけて、ブレイズやコーンベルト北部に寒波が戻るだろう。

中西部には特に干ばつの傾向は無いが、少し土壌水分が少

平年との気温差 南部は高い



TOPIC s 冬小麦の Crop Progress

冬小麦2013/14年度作柄						
冬小麦	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月8日	10%	19%	36%	30%	5%	35%
前年度	12%	18%	34%	31%	5%	36%

本年最初のCrop Progressが公表された。Crop Progressは毎週月曜日に公表される。（日本時間火曜日）今回は、冬小麦や綿花等で、トウモロコシ・大豆の記載はない。

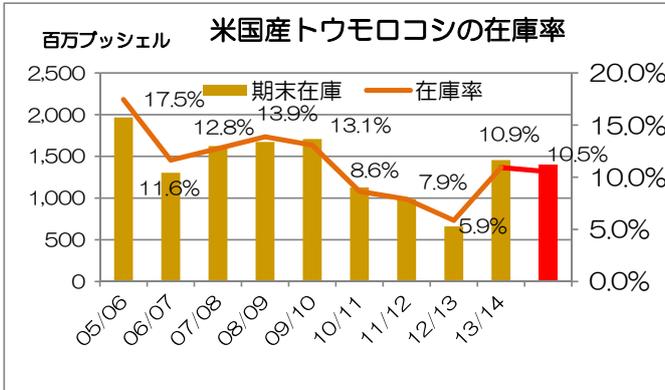


TOPICS 本日公表予定の米農務省発表の4月の需給報告予

4月の需給報告では、11/12年度の需給が確定する。11/12年度の他に12/13年度、13/14年度が公表される。(いずれも左側の年に生産し、右側の年の8月までに消費するものを言う)14/15年度、つまり今年作付けされるものについては5月の需給報告から公表される。したがって、今夜の需給報告では、13/14年度が注目されるが、生産はすでに確定しており、問題は需要の動向で、それによって変化する期末在庫量と期末在庫率である。

3月までのトウモロコシの13/14年度需給

	2013年5月	6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月	3月	4月の予想
百万エーカー											
作付面積	97.3	97.3	97.4	97.4	97.4	95.3	95.3	95.4	95.4	95.4	→
収穫面積	89.5	89.5	89.1	89.1	89.1	87.2	87.2	87.7	87.7	87.7	
ブッシェル/エーカー											
単収	158	156.5	156.5	154.4	155.3	160.4	160.4	158.8	158.8	158.8	→
百万ブッシェル											
期初在庫	759	769	729	719	661	824	824	821	821	821	→
生産	14,140	14,005	13,950	13,763	13,843	13,989	13,989	13,925	13,925	13,925	
輸入	25	25	30	30	25	25	30	35	35	35	→
供給合計	14,924	14,799	14,709	14,512	14,530	14,837	14,842	14,781	14,781	14,781	
飼料その他	5,325	5,200	5,150	5,100	5,100	5,200	5,200	5,300	5,300	5,300	→
品・種子・工業	6,295	6,350	6,350	6,350	6,350	6,350	6,400	6,400	6,400	6,400	
エタノール等	4,850	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,950	5,000	5,000	5,000	→
国内消費合計	11,620	11,550	11,500	11,450	11,450	11,550	11,600	11,700	11,700	11,700	
輸出	1,300	1,300	1,250	1,225	1,225	1,400	1,450	1,450	1,600	1,625	→
需要合計	12,920	12,850	12,750	12,675	12,675	12,950	13,050	13,150	13,300	13,325	
期末在庫	2,004	1,949	1,959	1,837	1,855	1,887	1,792	1,631	1,481	1,456	→
在庫率	15.5%	15.2%	15.4%	14.5%	14.6%	14.6%	13.7%	12.4%	11.1%	10.9%	



1,306~1,478 (平均1,403=)

左のグラフは、2005年以來の米国産トウモロコシの期末在庫量と在庫率であり、一番右の赤棒と赤線は今夜公表される4月需給報告に対する予想の在庫量と在庫率(10.5%)である。

この数字は価格にすでに織り込み済みであり、この予想在庫量より少なければ今夜価格

	2013年5月	6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月	3月	4月の予想
百万エーカー											
作付面積	77.1	77.1	77.7	77.2	77.2	76.5	76.5	76.5	76.5	76.5	→
収穫面積	76.2	76.2	76.9	76.4	76.4	75.7	75.7	75.9	75.9	75.9	
ブッシェル/エーカー											
単収	44.5	44.5	44.5	42.6	41.2	43	43	43.3	43.3	43.3	→
百万ブッシェル											
期初在庫	125	125	125	125	125	141	141	141	141	141	→
生産	3390	3390	3420	3255	3149	3258	3258	3289	3289	3289	
輸入	15	15	15	15	15	15	25	25	30	35	→
供給合計	3530	3530	3560	3396	3289	3413	3423	3454	3459	3464	
圧砕	1695	1695	1695	1675	1655	1685	1690	1700	1700	1690	→
輸出	1450	1450	1450	1385	1370	1450	1475	1495	1510	1530	
種子	87	87	87	87	87	87	87	87	87	87	→
その他	33	33	33	29	28	22	22	12	12	12	
需要合計	3264	3264	3264	3176	3140	3243	3274	3304	3309	3319	→
期末在庫	265	265	295	220	150	170	150	150	150	145	
在庫率	8.12%	8.12%	9.04%	6.93%	4.78%	5.24%	4.58%	4.54%	4.53%	4.37%	131~147 (平均139.3 = 4.20%)



米国産大豆の期末在庫と在庫率



大豆の期末在庫は4.4%でも少ないが更に少なくなる可能性がある。12/13年度は供給が少なかったが輸出が減少していたため、在庫は残ったが、今年は輸出が好調である。

問題はこの在庫の減少がどれだけ既にシカゴ大豆価格に織り込まれているかであるが、14.5ドル以上になった段階で一度は織り込まれているが、その後上下動を繰り返している。

いずれにせよ、本日の需給予測で、期末在庫が145百万ブッシェルからどれだけ減少するかがポイントなるだろう。

TOPICS 中国はブラジル産トウモロコシを承認

中国国家品質監督検査検疫総局は3月31日、ブラジル産コーンに品質許可を発行することで、ブラジル当局と契約を結んだ。中国のコーン輸入はこれまで米国産が90%以上占めていたが、輸入先を分散した。中国は、2012年にはアルゼンチン産、ウクライナ産の輸入も解禁しており、急増する食糧需要に対応するため調達先を拡大し始めた。

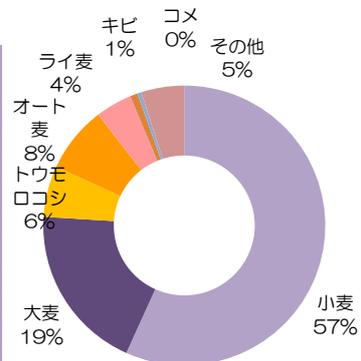
トウモロコシは家畜の主要飼料。中国の穀物生産は昨年、10年連続の豊作を確保したものの、都市部の肉消費量が拡大し需要に追いついていない。一方、米国産トウモロコシからは中国が未承認の遺伝子組み換え成分が相次ぎ発覚しており、検疫当局は昨年来、数十万トンに港で突き返した。

TOPICS ロシアの穀物

単位：千トン・千ヘクタール

	小麦	大麦	トウモロコシ	ライ麦	オート麦	キビ	コム	その他	合計
収穫面積	23000	7800	2400	1700	3100	350	185	2000	40535
期初在庫	6043	1115	681	388	234	0	60	300	8821
生産	5200	16000	11000	3000	5000	380	650	3000	91380
輸入	1000	200	50	0	0	0	250	50	1550
供給合計	59043	17315	11731	3388	5234	380	960	3350	101401
輸出	18000	2500	2500	100	0	0	200	500	23800
飼料用消費	13000	8600	7500	300	3500	160		1600	34660
食料用消費	22000	4600	1000	2700	1500	220		1100	33120
消費合計	35000	13200	8500	3000	5000	380	700	2700	68480
期末在庫	6043	1615	731	288	234	0	60	150	9121
消費合計	59043	17315	11731	1388	5234	380	960	3350	101401
単収	2.26	2.05	4.58	1.76	1.61	1.09	5.41	1.5	2.25

ロシアの収穫面積



天候が良ければロシアの2014年の穀物生産量は9,100万トンと前年比▲1百万トン減となる。

しかし、過去5年平均比（そのうち2年は干ばつ）では+10%増である。

小麦は5,200万トン（昨年とほぼ同じ）、そのうち大麦1,100万トン（▲6百万トン、▲5%減）である。

2014/15穀物年度の輸出は2,400万トン、（前年とほぼ同じ）小麦の輸出は1800万トン（+0.5百万トン）大麦の輸出は250万トン、トウモロコシは前年の320万トンの輸出から250万トンに▲0.7百万トン減少）その他は前年と同じ0.8百万トン。

50~60%を占める春物は未だ作付けされていない。冬物は良い状況で育てているが、4月と5月の天候に左右される。以下の理由により穀物生産は昨年より少し減少するかもしれない。

★ 農業省のデータによれば、冬穀物（小麦、ライムギ、大麦及びライ小麦）は2013年より▲10%減少する。これは2013年に非常に雨がが多く、中部連邦地域の農家が冬の穀物の種まきができなかったためである。

★ 近年近代的大規模農法により使用されてきた輸入種子や化学品がルーブルが1月~3月にかけて安くなったため値上がりした。

★ 2014年の連邦予算削減により穀物生産に対する連邦及び地王の資金が減少した。



こうした冬物穀物の減少にもかかわらず、全体では過去5年平均を上回る生産が見込まれている。以下は2014年の穀物生産が拡大する理由である。

★ 冬穀物の主要生産地トップスリーのKrasnodar Kray, Stavropol Kray 及びRostov州は2013年に比べて5%の減収に過ぎなかった。これらの地域での今年の冬穀物は昨年よりも出来が良い。また冬の枯死に率は昨年よりも少ない。

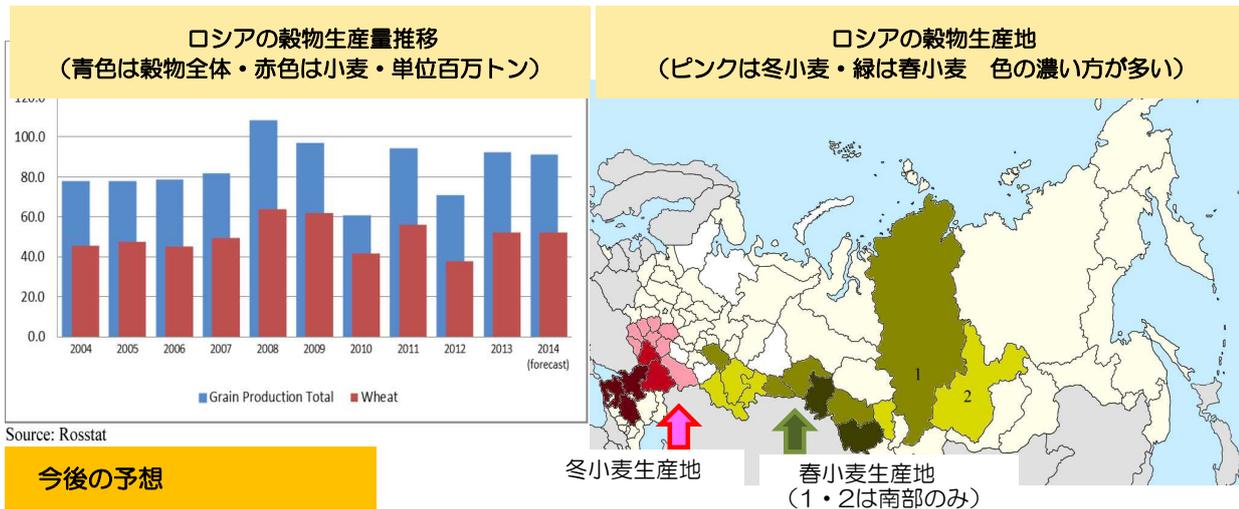
★ 春穀物地域は穀物価格が良いので2013年より広くなる見込みである。

国内の穀物価格は、国内用も輸出用も需要が多く、在庫が少ないので上昇している。3がる1日時点のロシアの穀物在庫は2013年3月よりほんの少し多いだけであり、過去2年間の在庫水準よりも少ない一方で、小麦粉や飼料用需要は安定して多い。対ドルや対ユーロのルーブル安にy戸い、穀物輸出に拍車がかかっており、国内価格を押し上げる要因にもなっている。その結果中央ユーラシアロシアの農民には春穀物生産の良いインセンティブとなっている。

★ 作付け意向面積の調査によれば、ユーラシアロシアではトウモロコシを栽培する面積が増加する見込み。それはトウモロコシの単収が他の穀物の2~3倍であるためだ。このためロシアの穀物生産の送料が増加している。

★ ロシアの穀物消費量は6860万トンと13/14年度より+130万トン増加する見込み。国内の食料や工業用需要は前年並みの3300万トンである。小麦粉やシリアル消費はそれほど増加しない代わりにスターチやシロップ等の加工穀物製品の消費が増加する。飼料用需要は3470万トンと前年の3340万トンから増加する・トウモロコシ、大麦、オーツ等の需要が飼料用に増加する。

★ 14/15年度の穀物輸出は前年度とほぼ同じの2400万トンと見込まれている。小麦が1800万トンと前年より+50万トン増、大麦は250万トン変わらず、トウモロコシは前年の320万トンから▲70万トン減少して250万トンとなる見込み。その他は昨年同様の80万トン。



今後の予想

トウモロコシ価格も5ドルをこえ、大豆価格は1450セントを超えている。年初から比べると、それぞれ20%、15%の値上がりとなっている。かなり上昇したと言える。今後更に上昇するには、大きなサプライズが必要であろう。今夜公表される4月の需給報告では在庫が減少することはすでに織り込み済みで、どの程度少なくなるかによって価格は動くであろう。大豆は期末在庫がかなり少なくなる見込みのため、今夜の在庫減が顕著であれば、大幅に価格が上昇することもあり得る。逆に、減少してもその幅が予想の範囲内であれば、反落する可能性もあり、今の時点では何ともいえない。発表を待ってから売買するしかないだろう。14年度の作付に関しては、今のところ天候に大きな異変は無く、エルニーニョの気配はあるが、それほど大きな気候変動を引き起こす規模には今のところならないようである。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス (以下「COMMi」という) が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかなるかを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。



発行元：

株式会社コモディティ インテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc